

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2025年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱	
工期	令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日		作成者	加藤 雅人	
作業名称	橋梁ジョイント清掃	作業手順書	作成年月日	令和4年5月6日	
使用機械 使用設備	高圧洗浄車両、2tD/T(小型吸引車積載)、緩衝車両(標識車or散水車)、トイレカー		改正年月日	令和4年6月30日	
			現場責任者		
使用工具、機器	スコップ、ほうき、バール、ブロワー		協力会社	会社名	
			協力会社責任者	自署サイン	
保護具	ヘルメット、安全靴、脚絆、マスク、手袋、視認性の良い作業着		作業順序		
材料					
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	自動車運転免許証				
作業人員	作業責任者 1人、作業員 2~4名、保安員 2人				
	合計 5~7 名				
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日			令和4年5月6日
	<small>(役割を確認してこの作業に関わる全員が自署サインする)</small>				
1	事前準備				
2	出発~現場				
3	橋梁ジョイント清掃				
4	後片付け				
5	現場離脱				
6					

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。 <b>工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。</b> 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 <b>車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。</b>							
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
ケーブル等周辺安全確認 (埋設物・構造物)		管理用図面で事前確認	図面にない露出ケーブルを剣スコップや鎌で損傷させる	△	×	△×	4	安	作業前に全員で現場を確認し、ケーブルの有無を全員が把握する
事前準備	出発前の車両点検及び道具の準備	忘れ物がないよう全員で準備を行う	重量物を降ろしたり運ぶ際に腰を痛める	×	○	×○	3	安	重量物を運ぶ際は、2名以上で声を掛け合いながら運ぶ。
出発~現場	規制内への流入する	事前に規制責任者へ報告	規制内流入時、一般車が規制内へ誤進入し、保安員と接触する	○	×	○×	3	安	回転灯、ハザード、ウインターの順でルールを守る
橋梁ジョイント清掃	清掃作業前にサインポストの設置を行う	走行帯に近づかため保安員の合図のもと行う	センターライン際での作業中、一般車と衝突する	○	×	○×	3	安	センターライン際で作業する際は必ず誘導員を箇の聞こえる範囲に配置し、かつ正対作業を心がける
	堆積した土砂、フィンガー部のサビ等を除去	センターライン際の箇所の清掃作業も行うこと	センターライン際での作業中、一般車と衝突する	○	×	○×	3	安	センターライン際で作業する際は必ず誘導員を箇の聞こえる範囲に配置し、かつ正対作業を心がける
	小型吸引機による堆積物の吸い上げを行う	高欄側の付け根付近に堆積した土砂雑草も除去	清掃中、ジョイントの段差に足を取られて転倒する	△	△	△△	3	安	作業をする足元を確認して作業を行う
	噴霧器による洗浄、固着した汚れの除去を行う	責任者は作業漏れが無いかのチェック	水が飛散し、一般車へかかる	△	○	△○	2	安	水を扱う際は通行車両等への飛散が無いよう、圧の調整や保護を実施する
	ブロワーまたは帚等で仕上げを行う	車両間隔を5m以上あけ人が挟まれないようにする	一般車が規制内へ誤進入し、作業員と接触する	○	×	○×	3	安	作業時は正対作業を行い一般車に留意する。緩衝車両を現場60m手前に配置すること。
		大きい石がある場合に転がっていかないようにする	除去した石や堆積物が下に転がり人や構造物に当たる	×	○	×○	3	安	除去物を置く場所の確認。本線側には置かないこと。
	清掃終了後、完了した数量を確認する		バキュームのドラム間を交換する際にドラム缶の重量に耐えられず、本線へ落とす	△	△	△△	3	安	ドラム缶交換時は2名以上で声を掛け合って作業を行う。
後片付け	忘れ物がないか、全員で最後に現場周りを確認								
現場離脱	現場から離脱する	安全に離脱する	一般車との接触する。	△	×	△×	4	安	保安員の合図で現場規制内から離脱する
			荷台から物を落とし、一般車に当たる	×	△	×△	2	安	現場離脱前に必ず荷台の点検・確認を行うこと。
									<b>工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事</b>